

電波資源拡大のための研究開発・平成30年度終了評価

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
次世代映像素材伝送の実現に向けた高効率周波数利用技術に関する研究開発	H26-H29	<ul style="list-style-type: none"> ・基本技術を確立されており、有益であったと考える。高層ビルが林立する都心部では長遅延マルチパス波が品質劣化や同期はずれの要因になることから、オリンピックのマラソンコースなどでフィールド実験を重ねていただきたい。 ・2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会では世界各国からくる要人に向けて最大の日本の放送技術をアピールする場である。本研究計画はタイムリーであり、その実現手段や体制についても妥当なものであった。2018年12月に8K実用化放送が始まり、8K普及に向けた技術開発の加速が期待されるが、放送番組素材について高効率かつ高信頼のリアルタイム伝送を行うための基盤技術の確立を目指した目標を達成しており総合的に見て有益である。 	4.4
小型高速移動体からの大容量高精細映像リアルタイム無線伝送技術の研究開発	H27-H29	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな問題は無いが、開発する技術を具体的にどのような品質要求と運用環境のシステムに適用するのかの前提が明確でなく、実用化についてさらなる検討が必要である。 ・実用化の観点では、IoT応用として、いくつかの利用シーンを想定したフィールド試験を実施しており、良好な特性が得られていることから、実用化の可能性が示されている点が評価できる。知的財産の取得は活発にしているが、国際標準化等への取り組みはまだしていない。今後、本技術を取り込んで製品化するにあたって標準化は必要と思われる。それと同時にそれらの製品の海外市場への展開を考えると国際標準化は重要なので、今後の取組に期待する。 	3.5
テラヘルツ波デバイス基盤技術の研究開発 300GHz帯増幅器技術	H26-H29	<ul style="list-style-type: none"> ・計画した到達目標に近づいているが、更なる検討が必要。 ・テラヘルツ帯通信について国際標準化に積極的に取り組まれている。本研究開発の増幅器が製品化・流通すれば、テラヘルツ帯通信のイノベーションを起こすものであるが、そのためには、安定性の向上と、通信距離の拡大が重要である。今後の取組に期待する。 	3.1